

TTC ゆった〜り山行実施記録表 2015年8月9日 報告者: MY

山行名	立山弥陀ヶ原・称名滝トレッキング/黒部峡谷トロッコ列車 【弥陀ヶ原 1950m/富山県】					
実施日	平成27年8月5日(水)〜7日(金) 2泊3日 公共交通利用					
天候/参加人員	天候:晴 レベル:★★ 参加者:申込8名/実施8名(男2名/女6名)					
パーティスタッフ	CL/計画/写真:、SL/写真:、会計:、救護: スタッフ名削除					
参加メンバ	参加者氏名削除					
費用 一人当たり; 51,200円 カンパ金 714円	51,200円(交通費¥30,420+宿泊費・通信費¥20,691+カンパ金¥89) [交通費] JR乗車券(往路:乗車券(町田-信濃大町)、特急座席指定券(八王子-信濃大町)、帰路:乗車券(黒部宇奈月温泉-新宿)、北陸新幹線特急座席指定券(黒部宇奈月温泉-大宮)xジパング倶楽部手帳利用により正規料金の20%引/@15,490x8)¥123,920、ジパング代(信濃大町-扇沢)¥10,150、立山黒部アルペンルート(扇沢-室堂:@5,860x8)¥46,880、バス代(室堂-弥陀ヶ原:@810x8)¥6,480、バス代(称名滝-立山:@500x8)¥4,000、富山地鉄(立山-宇奈月温泉:団体10%割引@1,890x8)¥15,120、富山地鉄(宇奈月温泉-新黒部:団体10%割引@570x8)¥4,560、黒部峡谷トロッコ列車(宇奈月温泉-樺平往復、往路:リラックス車両(@1710+530)x8+帰路:普通車両@1,710x8)¥31,600、トロッコ列車料金銀行振込料金¥648/ 交通費合計¥243,358/一人当たり@30,420 、[宿泊費:その他] 雷鳥荘((@9,050+150)x8)¥73,600、グリーンビュー立山((@11,216+150)x8)¥90,928、通信費¥1,000/ 宿泊費・その他合計¥165,528/一人当たり@20,691/合計¥408,886/一人当たり@51,111 集金(@51,200x8)¥409,600-支出総額¥408,886=残金:¥714(@89)(カンパ金会計に繰入れ)					
所要時間	8/5(室堂⇒雷鳥荘) 歩行距離 2km		8/6(雷鳥荘⇒室堂+弥陀ヶ原⇒称名滝トレッキング) 1.5km+10km		8/7(樺平⇄猿飛峡散策) 歩行距離約 2.2km	
	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間	歩行時間	行動時間
ガイトブック	0:40	—	0:30+5:40	—	0:40	—
計画	0:30	1:05	0:30+6:15	0:30+7:30	~1:00	1:28
実行	1:00	1:36	0:37+4:44	0:47+6:47	0:34	1:09
実行コースタイム記録						
◆8/5(水) 天候:晴一時曇 [室堂ターミナル→室堂山荘經由→雷鳥荘/歩行距離 2km/歩数 9,500 歩(厚木出発から)] 小田急 JR相模線 横浜線 あずさ3号 ジパング タン トロリバス 地下ケーブルカー ロープウェイ トロリバス (昼食) 1:00 本厚木==厚木==橋本==八王子==信濃大町==扇沢==黒四ダム==黒部平==大観峰==室堂ターミナル— 6:40 6:42/6:45 7:19/7:23 7:35/8:03 11:03/11:09 11:38/12:00 12:16/12:45 12:50/13:00 13:05/13:15 13:24/14:00 (室堂山荘・ミドリ池經由)——雷鳥荘(泊) 夕食 18:50~/就寝 21:00~ 15:00 到着						
◆8/6(木) 天候:晴 [雷鳥荘→室堂/弥陀ヶ原→湿原→追分→弘法→八郎坂→称名滝→称名バス停/グリーンビュー立山泊/歩行距離 11.5km/標高差:登り 110m/下り 60m+登り 20m/下り 1000m/歩数:24,000 歩] 0:24 0:13 路線バス 湿原散策 0:30 0:15 0:49 0:17 0:49 雷鳥荘—ミドリ池—室堂ターミナル==弥陀ヶ原(大回りコース)—追分——休憩卓——弘法休憩卓——八郎坂下口—— 6:43 7:07/7:12 7:25/8:00 8:19/8:35 9:05/9:10 9:25/9:35 10:24/10:52 11:09 0:05 0:31 0:52 (昼食) 0:10 0:06 0:20 (かき氷) 路線バス 0:03 (泊) 休憩—第2展望台—第1展望台——飛龍橋——称名滝展望台—トレ——称名滝バス停==立山—グリーンビュー立山 11:58/12:12 12:17 12:48/12:55 13:47/14:25 14:35/14:44 14:50/15:02 15:22/15:55 16:10/16:32 16:35 着						
◆8/7(金) 天候:晴 [立山⇒(富山地鉄)⇒宇奈月温泉⇄トロッコ列車⇄樺平/猿飛峡散策⇒宇奈月温泉⇒黒部宇奈月温泉⇒北陸新幹線⇒大宮・新宿・厚木帰着/歩行距離約 2.2km/歩数約 10,500 歩(帰宅まで)] 朝食 6:25~ 富山地鉄/各駅停車 2:31 トロッコ列車リラックス車両 1:24 0:16 (昼食) 0:17 トロッコ列車普通車両 1:21 グリーンビュー立山—立山駅==寺田・上市乗換==宇奈月温泉==樺平駅——猿飛峡——樺平駅==宇奈月温泉 7:00 7:05/7:26 9:57/10:43 12:07/12:19 12:25/12:58 13:16/13:31 14:52/15:28 富山地鉄 0:34 北陸新幹線/はくたか 572 (乗換)かがやき 湘南新宿ライン/小田急 ==新黒部・黒部宇奈月温泉==長野==大宮==新宿==本厚木 16:02 17:20 18:12/18:17 19:18/19:35 20:12/20:31 21:25 着						
コースの概要、特記事項、反省事項等						
立山室堂から眺められる主要な山である、左(南)から、浄土山・立山・別山の立山三山を始め、剣岳、奥大日岳、大日岳は、これまでの TTC 主催山行で登ってしまった。しかし、日本海に向かう西裾野に広大な湿原						

が広がり、高山植物の宝庫と言われている弥陀ヶ原や、落差 350m を四段で流れ落ちる日本一の落差を誇る称名滝は、美女平～室堂間を走るバスの中から、チリと姿を見たことがあるだけで、訪ねたことがあるムバは殆どいない。そこで、今回のゆった～り山行では、標高 1950m の弥陀ヶ原から弘法までの大草原や湿原の花々を愛でつつ、大日岳や薬師岳の大展望を堪能するフワートルッキングと、古の登山道「八郎坂」を下って、その全容を一度に見ることが困難な称名滝を最上段から滝壺まで、間近から眺める下り標高差約 1000m のトルッキングコースを設定した。また、シアマバから希望が多かった黒部トロッコ列車による黒部峡谷探勝と、今春開通した北陸新幹線初乗車を組み合わせた 2 泊 3 泊行程のプランとした。交通費の削減を図るため、参加者 8 名全員が JR 東日本「ジパング倶楽部」に入会、JR 乗車券・特急券を 20% 割引 (3,873 円引) で購入した。

◆ 8 / 5 (水) 出発日 8/5 の前夜、横浜-桜木町駅間で架線切断事故が発生し、根岸線・京浜東北線・東海道線等が深夜まで長時間不通となり、8/5 始発からの横浜線の運行は遅延や間引き運転が必至との情報が流れた。出発日の早朝、NET や TV で最新情報を確認。朝の通勤時間帯の横浜線のダイヤ乱れは必至とのことで、SL と相談のうえ、町田に集合して八王子に向かうのをやめ、厚木から相模線を利用して八王子に向かう迂回コースに変更した。しかも出発期間を約 30 分前倒しすることに急遽変更し、CL と SL が手分けしてムバに電話でルート変更と集合場所・時間変更の連絡をした。この判断が功を奏し、余裕をもって八王子駅に到着でき、あずさ 3 号に乗車して信濃大町に、定刻の 11:03AM に降りたつことができた。

信濃大町駅から扇沢までは、経費節減とアクセス時間短縮のため、予約しておいたジャンボタクシーを利用した。そのおかげで、予定の便前の 12:00 発の臨時便のトリーバスに間に合った。黒四ダム以降の黒部平までの地下ケーブル、大観峰までのロープウェイ、再度トリーバスに乗り換えての室堂ターミナルへと、順調に乗り継ぎ、これまでの最短記録となる 1:24 のアクセス時間で扇沢から室堂ターミナルに到着できた。

大勢の観光客や登山者で混雑しているターミナルを抜け、「玉殿の泉」前の広場に出ると目前に立山連峰の大パノラマが広がったが、あいにく雲量が多く、雄山頂上の社務所の建物が時折姿を見せる程度で、頂稜部が一斉に姿を見せることはなかった。ここで、遅めのランチタイムを楽しんだ。予定より 2 時間ほど早く到着できたので、今夜の宿「雷鳥荘」には、お花畑の中を少し回り道して、室堂山荘・ミドリ池を経由するルートを、今を盛りに咲き競う花々を愛でながらゆったりと向かった。フングルマの白花もまだ健在、豪華なシキンバイ、シマキンバイ、ハクサンチドリ、ヨバシオガマ、トモシオガマ、ウキギク、キノコカ、ヤマハコ、コバケイロウ、ニコウキスゲ、シノオトギリ、ワケイロウ、ワレコウ、シヅクソウ、ウツボグサ、ニガナ、タケノコ、ウバチロウ、ゴゼンタチバナ、ノコギリ、ツリガネソウ、アキギリソウ等々、多くの花々に出合った。みくりが池西畔から雷鳥荘までの約 1km の登山道には、北西側の地獄谷から立ち昇る噴気に含まれる硫化水素の鼻を突く臭気がきつく、コースの 2ヶ所に毒ガス吸入除けの罌を水で濡らすための水道が設置されており、地獄谷直上の高台に有害ガス監視人詰所の建物を建設中であった。地獄谷に近い斜面に自生していたハイマツは、無残にも枯死して、一面茶色に変色していて、痛々しい。

この日の雷鳥荘の 1、2 階は大阪の中学校の修学旅行生が占拠、一般客は 3 階のみ。TTC8 名には 8 畳+α 一間が割り当てられたが、ハイシーズンのこの時期賛沢は言えない。修学旅行生の風呂貸切時間が終える 4:30pm を待って、待望の白色の濁り湯に浸かって疲れを癒した。一般客の夕食は 6:50pm からと少々遅めの時間であったが、刺身をはじめ、白エビやウチノ海の幸、新鮮野菜も多く、北アルプスの稜線の山小屋の食事に比べ豪華であった。

室堂ターミナルで、TTC 創立時ムバの一人で、アルプスの名手である I さんにばったり出会った。お姉様ご夫妻と 3 人で、今朝扇沢から室堂に入山し、獅子ヶ鼻岩の難コースを辿って、弥陀ヶ原までトルッキングし、バスで室堂まで戻ってきたところで、今夜の宿泊先は我々と同じ雷鳥荘だという。TTC ムバ 8 名中、7 名は旧知の間柄、懐かしい旧友との偶然の再会に、夕食後何時間も旧交を温めあった。夕方には、雲が晴れ、立山連峰の山々が夕日に輝いて美しい景観を楽しませてくれた。

◆ 8 / 6 (木) 雲一つない快晴の朝を迎え、朝日を浴びて輝く頂稜部とまだ日が当たらない山肌とのコントラストが見事だ。5:45AM から一番の朝食を済ませ、みくりが池を経由する最短距離を室堂ターミナルに向かい、8:00AM 発の朝一番バスに乗車して、弥陀ヶ原に向かう。弥陀ヶ原村の横から、木道に導かれて広大な湿原に入り、約 2km の外周コースを反時計回りに、追分まで約 2km を散策。室堂に比べ標高が約 400m 低い弥陀ヶ原湿原では、すでにフングルマは穂になり、初秋の花[ヤギラン]が咲きはじめていたが、池塘の回りにはまだワサゲの穂が揺れていた。広大な湿原の先には、奥大日岳、中大日岳、大日岳が大きく高く聳えている。追分で車道を横切り、自動車道路の左側の緩やかな傾斜の灌木林や、草原や湿原に沿って、木道を 2.3km 下ると弘法太子像の石像が祀られている弘法平で車道を横切り、今度は車道の右側に行くようになる。この辺まで降りてくると、左手に大きく聳える薬師岳の雄姿と、正面に鍬崎山が大きく高く聳えて見えた。弥陀ヶ原湿原には、あんなに大勢の家族連れやオジサン・オバサンのグループで賑やかであったが、追分から弘法に下るコースは静寂そのもので、出会ったハイカーは、単独行の女性 1 名のみであった。

弘法の休憩卓から 17 分進んだ先に八郎坂に向かう分岐がある。八郎坂の下山コースに入ると、木道が途切れ樹林帯の細道に変わり、ほどなく急傾斜の悪路となる。ここから標高差約 600m の下りが続く八郎坂の核心部、足場の悪い急斜面で、足を滑らせて転倒や滑落しない様、全員声を掛け合い、細心の注意を払い、神経を集中しての約 1.5 時間のハードな下りが続く。下り始めてすぐに、滝を流れ落ちる轟音が響きわたり、右下に称名滝の

最上部が、そして、高度を下げるにつれて、中間部、そして滝下部が望めるようになる。何しろ、4段になって落差 350m を流れ落ちる日本最大の滝「称名滝」の全景を一望することは困難であり、称名滝に直面する至近の急斜面に付けられた八郎坂から、滝のパートを覗き見しながら、称名滝の全体像を自分の頭の中で組み立ててみる以外にないようだ。坂の中ほどはつづら折りの比較的歩きやすいコースになり、2箇所滝展望台のベンチがあるが、ゴールの称名川と林道が眼下に見え始めると、再度急傾斜の浮石の多い悪路となり、落石注意の看板が目立つようになる。今シーズンが始まる前、登山道の一部が崩れ、登山道の付け替え工事が行われ、7月末まで、復旧工事が続き、8/1に八郎坂の通行止めが解除になり通行可能になったようだ。したがって、今シーズンにこのコースを歩いた登山者はまだ30~50名程度に過ぎず、そのうちの8名がTTCメバということになるようだ。「八郎坂」の文字を刻んだ特大の石碑の立つ八郎坂登り口に降りたち、称名川にかかる飛龍橋を渡って、橋のたもと休憩卓に陣取り、近くの沢水でほてった手足や顔を洗って、緊張の糸を緩め、少々遅い昼食を兼ねた大休止とした。

その後、ここから約10分ほど上流に進んで、滝下の橋を渡って、対岸に付けられた階段を50~60段ほど登ると、称名滝展望台に到着する。橋上に立つと、すごい水飛沫で、ほてった身体に心地よい。橋上から眺める称名滝は、滝壺を含めた滝の下部はよく見えるが、2段目は隠れて見えない。展望台まで登ると、2段目が見えるようになるが、滝壺は見えない。なお、八郎坂の上部で見下した最上段の落差約20mの滝は、いずれにしても、滝下の展望台からは見ることはできない。ピカピカに光っている垂直の岩壁を大水量の水が轟音を立てて流れ落ちる様は圧巻そのものだ。日本三名瀑と称される那智の滝、華厳の滝、袋田の滝のいずれも顔色なしの圧倒的なスケールと迫力に、初見参のTTCメバ全員が大感激。きつい八郎坂を自分の脚で下りながら、日本一の称名滝を上から、中間から、下から眺め、最後は至近の展望台から滝を見上げて、大満足したようだ。

今回、八郎坂で出会った登山者は5,6組程度。最後に出会った若いお嬢さんは、コワイコワイと泣きべそをかきながら、途中で出会ったという男性登山者にエスコートされながら登ってきた。TTCメバ全員で、「大丈夫！大丈夫！」と励ましてあげたのだが・・・

地元立山観光協議会発行の立山ガイドパンフレットに紹介されている難易度4ランクに分類されている17コースのトレッキングコースのうち、最難関の★★★★にランクされている室堂からの雄山登山、今回Iさんが辿った室堂から獅子ヶ鼻岩経由弥陀ヶ原コース、ケーブルカーに沿って美女平から千寿ヶ原に下る材木坂コース、東ノ越から黒部平に至る4コースに次ぐ、難易度★★★コースにランクされているのが、今回の八郎坂コースと黒部平遊歩道コースの2コース。雄山登山より難度の低いトレッキングコースとしてランクされていることから、下りであれば、さほど体力もいらず、危険もさほどないと判断したが、少々甘かったかも。メバの大半から、今回のコースはTTCレベルの★★ではなく、★★☆相当とのコメントを頂いた。久しぶりに緊張の連続であったが、大満足のトレッキングであったとのポジティブな評も頂いた。

滝見物後、林道を称名滝バス停まで約20分歩いて、終バス1本前の路線バスに乗車して、富山地鉄立山駅へ。宿泊予約してあった駅至近の富山県市町村職員共済組合保養宿泊施設「グリーンビュー立山」に宿泊。8畳和室3室に落ち着き、お肌すべすべの高濃度の炭酸水素塩のアルカリ温泉で汗を流し、生ビールで乾杯し、豪勢な和食懐石膳に舌包みを打ってから、眠りについた。

◆8/7(金) 立山駅7:26発の富山地鉄各駅停車富山行の電車に乗車。途中の寺田駅と上市駅の2駅で乗換え、宇奈月温泉に向かう。この間、45駅に停車、乗車時間2時間半ののんびりローカル線の旅を楽しんだ。乗換駅の寺田駅と上市駅のホームから、劔岳の雄姿が見えると聞いていたので、北方の山並みをしっかり眺め、地元の方に教えてもらったりしたが、高温で遠方が霞み、残念ながら劔岳を確認することはできなかった。

宇奈月温泉駅でNET予約/料金銀行振り込み処理をした黒部峡谷トロッコ列車の往復乗車券と引き換え、往路は、通常の客車と同じラックス車両に乗車し、終点の樺平まで1時間24分のトロッコ列車の旅。地元出身の女優「室井滋」の名が仆の声を聴きながら、次々に現れるトコロを潜り、緑濃い溪谷の景観を楽しんだ。樺平の滞在時間は約1時間半。とりえず黒部川下流に向かってつけられた遊歩道を約20分歩いて、黒部川の両岸が狭まって、激流となる樺平随一の名所「猿飛峡」に落ち着き、ランチタイムとした。昼食後、往路を樺平駅まで戻っただけで、それ以上観光する時間的余裕はなく、樺平駅からトロッコ列車に乗車し、宇奈月温泉に戻る羽目になってしまった。樺平滞在時間をもう少し多めにとっておけば、上流の名剣温泉付近まで散歩できたのに・・・と反省した。

宇奈月温泉から、今朝、乗車してきた富山地鉄宇奈月線に乗り換え、北陸新幹線の駅「黒部宇奈月温泉駅」に接続する「地鉄新黒部駅」まで戻り、北陸新幹線上り「はくたか」を待った。本日、都合3時間ほどローカル電車の旅を楽しませてもらった富山地鉄の乗車券は、8名以上で団体割引が適用になり、10%割引してもらって得した気分になった。ここから、各駅停車の北陸新幹線に約1時間乗車して、長野駅で、大宮駅までの途中駅に停車しない「かがやき」に乗り換えて約1時間。都合2時間の快適な北陸新幹線の旅で、大宮に到着。ここで乗換電車を何にするか少しまごつきながらも、一番早く新宿に到着できそうな東海道線直通の湘南新宿ラインの快速電車を選び、4駅の停車で新宿に到着できた。8/5の出発時、厚木駅で小田急からJRに乗り換える際に、自動改札口でPASMOのレギュラー処理があり、小田急新宿駅で全員のPASMOをリハビリ処理してもらった。30数度の気温に些か辟易しながら、各自最寄駅に無事帰り着いた。多くの公共交通を乗り継いで今回の山行は、その手配等に多くの労力を要し、CLと会計が大変苦労したが、このような旅もたまには良いものだと感じた。